

仙林寺だより

NO. 26
編集・発行
松田正貴

行事報告

福島市吾妻地区郷土史談会「史跡参拝」

十月十日午前十一時、市内吾妻地区の方々二十五名が、参拝に見えられました。南画の大家 熊坂適山・蘭斎の生涯と、画碑の説明、また、芭蕉句碑、剣豪 七宮伯耆信盛の説明をさせて頂きました。お昼時間も近くなり、一路梁川町方面に向かわれました。お天気にも恵まれ、絶好の参拝日和でした。



もの言えは
唇寒し

秋の風

熊坂適山・蘭斎は保原町市柳に兄適山一七九六・弟蘭斎一七九八生誕。兄は南画の絵師。弟は医師。共に、当時梁川を治めていら北海道松前藩に奉職、碑は適山亡き後、追善の為、蘭斎が建立したとされる。兄弟合作の碑は珍しいと言われる。門人には、明治南画界に名を馳せた菅原白龍等がいる。

寺子屋「芋煮会」

十月二十五日、恒例寺小屋「芋煮会」を開催、幸い天候にも恵まれ、昨年同様外での会食となりました。新入会員が入ったこともあり、参加者二十五名と大所帯、本堂前にテーブルを設営、自分達で集めた葉っぱで落ち葉焚き、副産物はもちろん焼き芋、メイソンの煮芋も自分達で調理、おむすびも美味しく出来ました。
丁度、墓参に訪れたお孫さん連れのお祖母ちゃんにもお裾分け、うれしそうに頬張る姿は、こちらの心まであたたくしてくれます。
また、ちよつとした空き時間を利用して、「癒しのおもちや制作」も体験。風船に小麦粉を入れただけの簡単な物ですが、不思議な感触で、みんな粉だらけになりながら夢中で取り組みました。
最後にいつもながらお手伝いいただいたご父兄はじめ檀家の皆様には、大変お世話になりました。大勢のご協力があつてはじめて成り立つ行事と思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。



大勢の芋煮会

12月の寺子屋は
「餅つき」の予定です

ちよつこ一言

「食育」・・・学校教育での食教育を重要視する傾向が始めています。最近の子供達は、糖分と脂肪分を摂りすぎる傾向にあるらしく、それが「キレる」性格に繋がっているらしいという研究結果があるようです。糖分の摂りすぎで、微量栄養素が間脳まで届かず自律神経のバランスを崩すこと、また脂肪分過剰摂取では、内臓に負担をかけ心身に影響を及ぼすのだと言われます。つまりこれらの改善のため、自分の食生活を見直し、それぞれの材料の役割を考え、正しい栄養を摂る、いわゆる栄養学に重点が置かれているようです。ここで、禅的食育の提案を一つ、東京のある小学校では、食事の合図に笛をふくのだそうです。また、他の学校でも、食事中立って歩く、漢字ドリルをする等、おおよそ給食を一緒に食べる雰囲気ではなかったと言います。手をあわせ「いただきます」という行為が宗教的だと排除されて久しいですが、このあたりで行いをも含めた「食事育」を考えたいものであります。
私達の命はものの命をいただいて成り立っております。一噛み毎に感謝の心を持たなければそれこそバチが当たるといふものです。その心があれば自然と手を合わせ「いただきます」と言えるでしょう。何も特別なことではないと思いますが、如何でしょうか。